

長崎県立島原病院

1. 概要

長崎県立島原病院（旧島原温泉病院）は、島原半島の中核病院として、救急および急性期医療の充実を図るとともに総合的な診療体制を整備しています。新病院は旧病院の西側高台に建設され、見晴らしも良く、眼下に有明海、背後に眉山を控える豊かな自然に恵まれた快適な環境になっています。

病院内は、1階玄関を抜けると、大きな窓から自然の光が差し込む明るいエントランスホールがあり、左側には広々とした外来待合と集約された外来診察室があります。また、病棟や病室も旧病院よりも明るく、ゆとりが持てるよう配慮されています。

雲仙・普賢岳噴火災害を体験した地域の災害拠点病院として、災害に強い病院づくりにも十分に考慮されており、建物は、新耐震基準の1.5倍の安全度。別館1階の研修ホールには、災害時に救護所として使用できるように医療ガスなどが配備され、地下1階には医療品や食料の備蓄倉庫が設置されています。

施設名	長崎県立島原病院
所在地	長崎県島原市下川尻町7895
建築面積	4,483㎡
延床面積	19,906㎡
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下1階 地上5階 塔屋2階
完成	平成13年8月



【長崎県立島原病院】

[特色]

バリアフリー

院内は段差のないバリアフリーが徹底され、高齢者や障害者をはじめ、病院を訪れる全ての人が利用しやすいように配慮されています。

総合医療情報システム

- ・IT化（総合医療情報システムの導入）により、部門間の情報の流れが迅速化されることで来院の方の待ち時間が短縮されます。
- ・再診時には自動再来受付機による受付が可能になることや、自動入金機で料金支払いができるなど、利便性の向上に努めています。

災害に強い病院づくり

- ・建物は新耐震基準の1.5倍の安全度で、別館1階の研修ホールには災害時に救護所として使えるよう医療ガス等の配備を行い、地下1階には医薬品や食料の備蓄倉庫を設けています。

- ・井戸水や雨水による3日分の水の確保を始め、電気・電話の引き込み線2重化、自家発電システム及び無停電装置（救急・手術部門等）の強化など、ライフラインの確保に配慮されています。

地域との連携強化

地域の医療施設や福祉施設、在宅支援機関等との連携を強化するとともに、病院機能を積極的に地域に還元して健康なまちづくりに貢献します。

地域医療連携室の新設と医療ソーシャルワーカーの配置

研修ホールの開放、ボランティア室の設置

2. 雑用水利用システム概要

(1) 雨水貯留施設概要（雑用水給水設備）

建物の屋根に降った雨水を地下1階床下ピットに貯留し、ろ過して雑用水受水槽（床下ピット）に貯留しています。また、降雨は不安定なため、井戸を新たに掘り、これも雑用水として利用しています。雨水、井戸水とも不足した場合は、上水を補給して対応しています。

雨水貯留槽の容量は、雑用水の5日分と災害時用として3日分を貯留します。貯留水は、雑用水として利用するほか、災害時に滅菌濾過して上水としても利用します。

- ・屋根面積 2,385 m²
- ・集水設備 屋根
- ・給水方式 高置水槽

予想供給量

一日予想供給量	254.0 m ³ / 日
うち 上水	152.4 m ³ / 日 雑用水 101.6 m ³ / 日
雑用水受水槽	51.0 m ³ (二層式、床ピット)
雑用水高置水槽	8.0 m ³ (二層式)
雨水貯水槽	1,224 m ³ (通常時 508 m ³ + 災害時 716 m ³)

(2) 雑用水利用の流れ

